

市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査(3) 長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報9

2016

中津市教育委員会

例 言

- 一、本書は大分県中津市教育委員会が2015年度に実施した市内遺跡発掘調査事業の調査概報である。
一、調査は2015年度国宝重要文化財保存整備事業および2015年度大分県文化財保存事業費の補助を受けて実施した。

- 一、調査主体 中津市教育委員会
調査責任者 廣畑 功（中津市教育委員会教育長）
調査指導 〔中近世城館調査〕
宮武 正登（佐賀大学教授）
中村 修身（北部九州中近世城郭研究会名誉会長）
高橋 一臣（中津市文化財調査委員会長）
三重野 誠（大分県教育庁文化課主幹）
調査事務 平原 潤（中津市教育委員会文化財課長）
大森 建（ 同 管理係長）
吉川 奈央（ 同 管理係主任）
長尾 淳平（ 同 管理係主事）
調査担当 高崎 章子（ 同 主任研究員兼文化財係長）
花崎 徹（ 同 文化財係主査）
浦井 直幸（ 同 文化財係副主任研究員）
丸山 利枝（ 同 文化財係主任）
三谷 紘平（ 同 文化財係主任）
曾我 俊裕（ 同 文化財係主事）
衛藤 美紀（ 同 文化財係主事）
村上 久和（ 同 文化財係嘱託）

上記の他、平成27年度長者屋敷官衙遺跡整備委員の後藤宗俊氏、渋谷忠章氏、高瀬要一氏、山中敏史氏、清野孝之氏、清水重敦氏にご指導を頂いた。

- 一、市内遺跡試掘確認調査は、花崎・浦井・丸山・村上が行い、中近世城館確認調査は、花崎・浦井が行い、長者屋敷官衙遺跡の調査を丸山が行った。
一、本書の執筆、編集は第1章・第2章1（3）（4）、2、4、7（4）（5）、8、9、10（1）、第3章を浦井が、第2章1（1）、3、5、6を村上が、第2章1（2）、10（2）を花崎が、第2章7（1）（2）（3）、第4章を丸山が行った。
一、遺構の実測、写真撮影などは調査担当者が行った。
一、現場作業・整理作業は下記の皆さんの協力による。
浅田くるみ、安倍方恵、岩男純子、小川禮子、奥田誠、甲斐義夫、金丸孝子、河原田実夫、久原彩、五反田正利、後藤満廣、塩谷絹子、祐成本文、立澤彩、田中貴子、中上好孝、中坂真基子、長倉朱見、法輪敬道、福成誠一、古市智子、本田廣和、松村たか子、松本和彦、松本浩司、溝口停二、宮津しのぶ、村上由美子、渡邊正一

目 次

第1章	遺跡の位置と環境	1
第2章	市内試掘確認調査	3
	1. 中津城下町遺跡	4
	2. 八並城跡	7
	3. 合馬遺跡	8
	4. 中原遺跡	9
	5. 白木遺跡	10
	6. 犬丸城跡	11
	7. 沖代地区条里跡	14
	8. 中村遺跡	16
	9. 法垣遺跡・黒水遺跡	17
	10. 周知遺跡外	17
第3章	中近世城館確認調査（3）	19
第4章	長者屋敷官衙遺跡	24
	報告書抄録	34

図 版 目 次

第 1 図	中津市内主要遺跡分布図	2
第 2 図	旧市内試掘確認調査地点	3
第 3 図	30次調査区位置図	4
第 4 図	城下町絵図から見た調査区位置図	4
第 5 図	34次調査区位置図	5
第 6 図	字上ノ町調査区位置図	6
第 7 図	字森ノ裏町調査区位置図	6
第 8 図	八並城跡調査区位置図	7
第 9 図	八並城跡遺構配置図	7
第10図	合馬遺跡調査区位置図	8
第11図	中原遺跡調査区位置図	9
第12図	中原遺跡遺構配置図	9
第13図	臼木遺跡調査区位置図	10
第14図	臼木遺跡竪穴状遺構上面表採遺物	10
第15図	犬丸城跡調査区位置図	11
第16図	犬丸城跡縄張図およびトレンチ位置図	11
第17図	犬丸城跡出土遺物	13
第18図	沖代町二丁目110番1 調査区位置図	14
第19図	相原字石原地区調査区位置図	14
第20図	沖代町二丁目73番6 調査区位置図	15
第21図	中央町一丁目調査区位置図	15
第22図	中央町二丁目調査区位置図	16
第23図	中村遺跡調査区位置図	16
第24図	法垣遺跡・黒水遺跡調査区位置図	17
第25図	東浜原口地区調査区位置図	17
第26図	鍋島向地区調査区位置図	18
第27図	中近世城館調査現地確認位置図	19
第28図	平田城跡縄張図	20
第29図	諏訪城跡調査区位置図	21
第30図	諏訪城跡地目色分図	21
第31図	三光上深水地区調査区位置図	22
第32図	三光下深水地区調査区位置図	22
第33図	本耶馬溪町跡田地区調査区位置図	23
第34図	長者屋敷官衙遺跡と周辺の古代遺跡	27
第35図	長者屋敷官衙遺跡 史跡指定地内遺構分布図	28

写真目次

写真1	30次トレンチ状況	4
写真2	34次3トレンチ	5
写真3	字上ノ町トレンチ状況（西から）	6
写真4	字森ノ裏町トレンチ状況（西から）	6
写真5	八並城跡トレンチ状況（東から）	7
写真6	合馬遺跡トレンチ状況	8
写真7	中原遺跡トレンチ状況（南から）	9
写真8	臼木遺跡トレンチ状況	10
写真9	犬丸城跡1トレンチ（東から）	11
写真10	犬丸城跡1トレンチ南壁	12
写真11	犬丸城跡堀跡状況	12
写真12	沖代町二丁目110番1 トレンチ状況	14
写真13	相原字石原地区トレンチ状況	14
写真14	沖代町二丁目73番6 トレンチ状況	15
写真15	中央町一丁目1 トレンチ（東から）	15
写真16	中央町二丁目トレンチ状況（東から）	16
写真17	中村遺跡トレンチ状況（南から）	16
写真18	法垣遺跡・黒水遺跡1トレンチ状況（南から）	17
写真19	東浜原口地区トレンチ状況（南から）	17
写真20	鍋島向地区溝状遺構	18
写真21	平田城跡5面石垣	20
写真22	三光上深水地区階段状曲輪	22
写真23	三光下深水地区畝状縦堀群	22
写真24	長者屋敷官衙遺跡調査区全景（北から）	29
写真25	長者屋敷官衙遺跡申請地① 上：全景、下：SB-5 Pit3（西から）	30
写真26	長者屋敷官衙遺跡申請地② 上：全景（西から）、下：SD-34断面（西から）	31
写真27	長者屋敷官衙遺跡申請地③ 上：全景（東から）、下：南溝縦断面（南から）	32
写真28	長者屋敷官衙遺跡申請地④	33

第1章 遺跡の位置と環境

第1節 地理的環境

中津市は大分県の最北部に位置する。人口約8万5千人、面積491km²を誇る。北は周防灘に面し、西は福岡県、東は宇佐市、南は玖珠町・日田市と境を接する。英彦山に源を発する一級河川山国川が市内を南から北へ貫流し流域一帯を潤す。上中流域は山々に囲まれた地形で、山国川やその支流により開析された河岸段丘上に集落は営まれる。頼山陽により絶景と称された奇岩・奇勝の多くは名勝耶馬溪として国の指定を受ける。下流域は沖積作用による県北最大の平野「沖代平野」と洪積台地「下毛原台地」が広がる。

第2節 歴史的環境

旧石器時代 市内の遺跡を概観すると旧石器時代の石器は才木遺跡（35）や法垣遺跡（19）で発見されている。

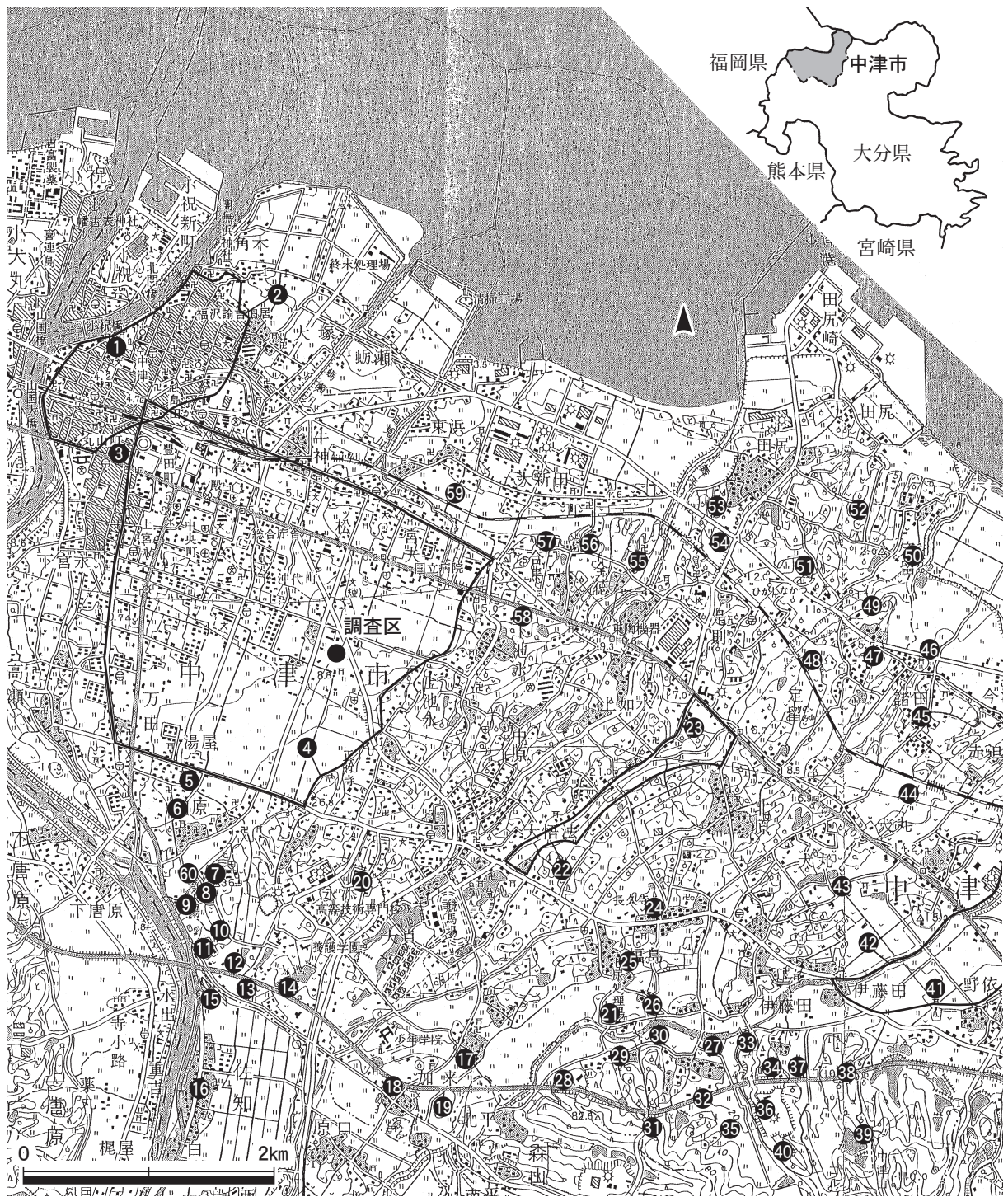
縄文時代 上畑成遺跡（43）で早期の無文土器が検出された。早期末から前期は黒水遺跡（18）で陥し穴が発見された。遺跡数は縄文後期から増大し、植野貝塚やボウガキ遺跡（21）、女体像と見られる土偶が出土した高畑遺跡がある。法垣遺跡は複数の掘立柱建物が検出され注目されている。

弥生時代 前期後葉から中期初頭の上ノ原平原遺跡（13）で貯蔵穴群が確認された。続く中期では二列埋葬の土壇墓・住居跡・溝が福島遺跡（25）で確認され、前期末から後期初頭の集落全域が森山遺跡（28）で検出された。

古墳時代・古代 亀山（亀塚）古墳（58）が挙げられるが、明治時代に調査せず破壊されたため詳細は不明である。その他の墳墓の多くは下毛原台地の西南に造営される。5世紀中ごろには山国川に面する勘助野地遺跡（12）で方形周溝墓が造営され、5世紀後半から7世紀前半にかけては上ノ原横穴墓群（11）が展開する。古墳時代後期には三保地域に岩井崎横穴墓群（29）、城山古墳群（34）、城山横穴墓群（33）などが見られる。また、7世紀から9世紀にかけて相原山首遺跡（7）で方墳が造られる。古墳時代後期の集落は諸田遺跡（45）や定留遺跡（47）でまとめて発見されている。古代には7世紀末に白鳳系の相原廃寺（6）が建立される。また、遅くとも8世紀前半には沖代平野に条里制（4）が施行されたと考えられ、条里の南限は「勅使街道」と呼ばれる古代官道が走る。8世紀後半には官道南側に下毛郡衙正倉に推定される長者屋敷官衙遺跡（20）が確認された。須恵器や瓦を製作した生産遺跡は、草場窯跡（37）、踊ヶ迫窯跡（38）、洞ノ上窯跡（31）などがある。集落遺跡としては古墳時代から10世紀まで続き緑釉陶器や墨書土器が出土した三口遺跡（60）がある。

中世 長久寺の田丸城跡（24）など中世城館が市内各地に築かれる。16世紀末は黒田氏の入封によって中津城（1）が築城される。近年の調査によって、中津城は石垣に高度な構築技法が採用された現存する九州最古の近世城郭であることが判明した。

近世 関ヶ原の合戦後、黒田氏に替わって細川氏が入部し、城・城下町は整備・拡張される。城下の造営は小笠原氏が入部する1632（寛永9）年に完成を見る（2）。1717（享保2）年に奥平氏が入部し、1871（明治4）年の廃藩置県まで城下は奥平氏が統治した。



- | | | | | |
|--------------|--------------|-------------|-------------|--------------|
| 1. 中津城 | 13. 上ノ原平原遺跡 | 25. 福島遺跡 | 37. 草場窯跡 | 49. 和間貝塚 |
| 2. 中津城下町遺跡 | 14. 大池南遺跡 | 26. 福島地下式横穴 | 38. 踊ヶ迫窯跡 | 50. 定留鬼塚遺跡 |
| 3. 豊田小学校校庭遺跡 | 15. 佐知久保畑遺跡 | 27. 前田遺跡 | 39. ホヤ池窯跡 | 51. 是能遺跡 |
| 4. 沖代地区条里跡 | 16. 佐知遺跡 | 28. 森山遺跡 | 40. 大谷窯跡 | 52. 田尻大迫遺跡 |
| 5. 市場遺跡 | 17. 加来居屋敷遺跡 | 29. 岩井崎横穴墓群 | 41. 野依遺跡 | 53. 舞手橋東段上遺跡 |
| 6. 相原廃寺 | 18. 黒水遺跡 | 30. 犬丸川流域遺跡 | 42. 野依地区条里跡 | 54. 是則遺跡 |
| 7. 相原山首遺跡 | 19. 法垣遺跡 | 31. 洞ノ上窯跡 | 43. 上畑成遺跡 | 55. 全徳遺跡 |
| 8. 鶴市神社裏山古墳 | 20. 長者屋敷官衙遺跡 | 32. 安平遺跡 | 44. 諸田南遺跡 | 56. ガラヌノ遺跡 |
| 9. 坂手隈城跡 | 21. ボウガキ遺跡 | 33. 城山横穴墓群 | 45. 諸田遺跡 | 57. 合馬遺跡 |
| 10. 幣旗邸古墳群 | 22. 大悟法地区条里跡 | 34. 城山古墳群 | 46. 天貝川遺跡 | 58. 亀山古墳 |
| 11. 上ノ原横穴墓群 | 23. 原遺跡 | 35. 才木遺跡 | 47. 定留遺跡 | 59. 東浜遺跡 |
| 12. 勘助野地遺跡 | 24. 田丸城跡 | 36. 城山窯跡群 | 48. 定留貝塚 | 60. 三口遺跡 |

第1図 中津市内主要遺跡分布図 (S=1/50,000)

第2章 市内試掘確認調査



第2図 旧市内試掘確認調査地点 (S=1/50,000)

中津市内における埋蔵文化財包蔵の照会件数は平成25年度から毎年約900件を数える。平成27年度1月末時点では約860件の照会を受け付けており、186件の文化財保護法93条及び94条が提出されている。今年度は市内遺跡発掘調査事業で18件の開発に伴う試掘確認調査を行った。

中津城下町遺跡は、近年空き家を解体して集合住宅などを建設する傾向がある。八並城跡内は活発な開発の動きはないが、遺跡内の公益財団法人関連施設の確認調査を行った。合馬遺跡は遺跡の北側で確認調査を実施した。中原遺跡は2件の集合住宅建設の届出に留まったが、周辺は空き地を宅地化する動きがある。白木遺跡内の照会件数は前年度の10件から今年度は5件へ減少しているが、大規模宅地造成が行われるなど周辺の開発化の兆しが見られる。大丸城跡は、これまで開発の動きは殆ど見られなかったが、高台の主郭推定地において確認調査を実施した。沖代地区条里跡は、大規模宅地造成や集合住宅建設など開発が続いている。照会の22% (197件) が同遺跡に対するものである。平田城跡に隣接する中村遺跡は、調査地の小字が「向屋敷」であり平田城跡に関連する遺構の発見が期待された。法垣遺跡・黒水遺跡は、過去に遺跡内で縄文時代や中世の遺構が発見されている。周知遺跡外の東浜地区・鍋島地区は周辺の調査歴が乏しく試掘調査を実施した。

1. 中津城下町遺跡

(1) 30次調査

1) 調査に至る経緯

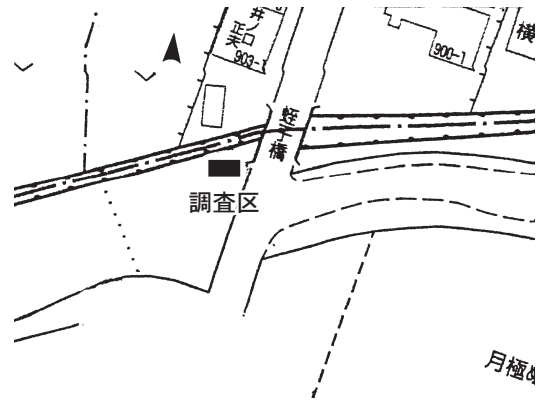
平成27年2月23日、蛭子町の外堀跡付近においてコインランドリー建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出がなされた。この地域は、江戸時代には島田村に属し山国川から金谷を通る外堀と城下を守るために作られた土塁（通称おかこい山）が連結した部分で、おかこい山と外堀は東西に延び下勢溜を北上し蛭瀬口を通り、大塚口から南・北堀川町西に向かい周防灘にそそぐ。中津城下総構の様相が絵図によって認められている。今回の確認調査は蛭子町（旧島田村）外堀の一部の形態と深さを確認するための確認調査である。

2) 確認調査

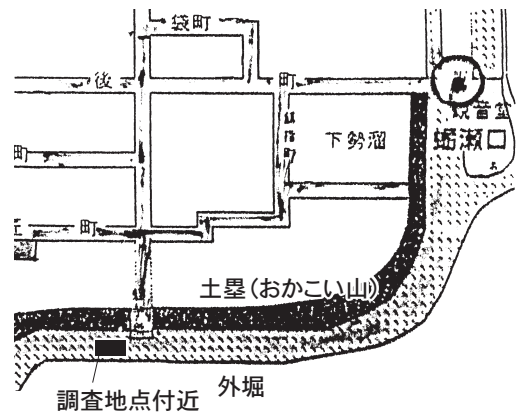
平成27年4月9日、幅2m×長さ4mのトレンチを設定してユンボにより堀の遺構検出を行った。堀跡は、長さ4m以上、深さ2m以上あったが地盤が砂質土であるのと水が湧いてきて落盤が激しいので最終的には堀の長さおよび深さは確認出来なかった。

3) 今後の措置

埋戻しを行い、調査を終了した。現地には店舗の建設工事が行われた。



第3図 30次調査区位置図 (S=1/2,500)



第4図 城下町絵図から見た調査区位置図



写真1 30次トレンチ状況

(2) 34次調査

1) 調査に至る経緯

平成26年7月に中津市1369番地外で埋蔵文化財包蔵地の照会が、中津市教育委員会になされた。工事内容は隣接する中津市立小幡記念図書館の駐車場建設で掘削を伴う。照会地は中津城下町遺跡として周知されることから、確認調査の実施が決定した。

2) 確認調査

調査地は中津城の中堀の南に位置し、幕末の絵図には武家屋敷が画かれる。平成27年12月22日に確認調査を実施した。3本のトレンチを設定し、重機で掘削を行った。表土から約80～90cm掘り下げ、黄褐色の整地層に達した。すべてのトレンチで縦穴の遺構が検出された。遺構の発掘を行っていないが、近世の遺構であろう。

3) 今後の措置

今回の工事内容は駐車場の建設で工事の大半は表土から50cm以内に収まる。一部、水路で70cmの掘削を伴うが遺構検出面まで達しないことから、本調査は不要と判断し調査を終了した。

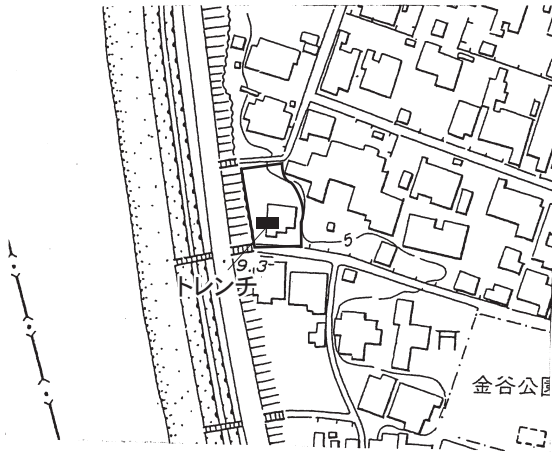


第5図 34次調査区位置図 (S=1/2,500)



写真2 34次3トレンチ

(3) 字上ノ町2279-1外



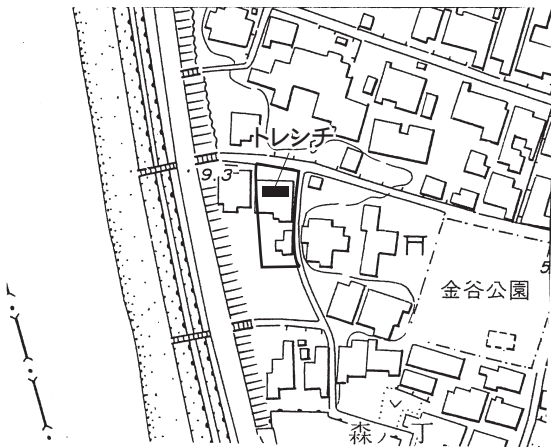
第6図 字上ノ町調査区位置図 (S=1/2,500)



写真3 字上ノ町トレンチ状況 (西から)

平成27年8月6日、中津市字上ノ町2279-1外の荒蕪地における、集合住宅建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。137㎡の長屋を建設し、建物下は80cm表層改良する計画であった。平成27年11月19日、駐車場部分にトレンチを設定し確認調査を実施した。地表面より下は層厚50cmの近現代の造成土、その下は層厚30cmのきめ細かい明茶褐色砂質土、その下は上層より硬質の砂質土に至る。きめ細かい砂質土と硬質土の境付近で古墳時代中頃と思われる高坏坏部などを検出した。精査したものの遺構は検出できなかったため、遺物包含層と判断した。工事は遺物検出面まで及ばないことから本調査の必要はないと判断し調査を終了した。

(4) 字森ノ裏町2217-1外



第7図 字森ノ裏町調査区位置図 (S=1/2,500)



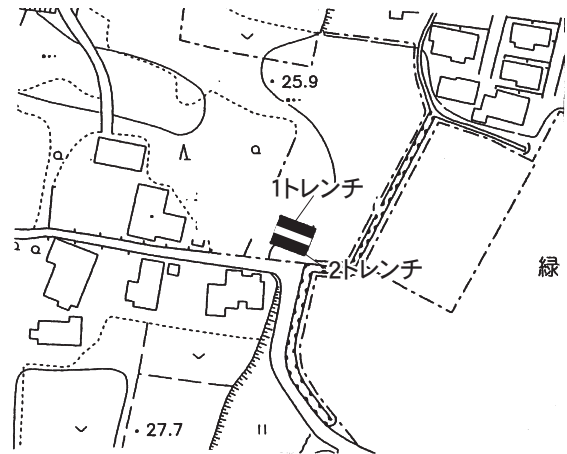
写真4 字森ノ裏町トレンチ状況 (西から)

平成27年8月6日、中津市字森ノ裏町2217-1外の荒蕪地における、集合住宅建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。89㎡の長屋を建設し、建物下は50cm表層改良する工事であった。平成27年12月18日、駐車場部分にトレンチを設定し確認調査を実施した。地表面より下は層厚30cmの近現代の造成土、その下は灰褐色砂質土、明褐色砂質土、茶褐色砂質土であった。各層位から遺構・遺物は検出できなかったため、同日調査を終了した。

2. 八並城跡

1) 調査に至る経緯

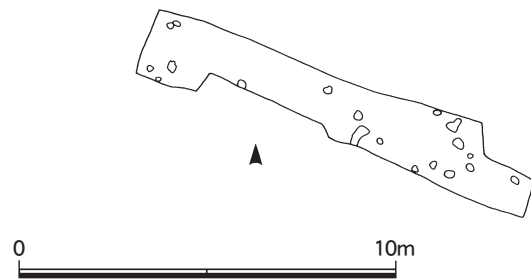
平成27年4月23日、中津市大字永添2367-1外の公益財団法人モラロジー研究所内における、東屋建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。東屋は広場である砂利舗装地に計画され、規模は床面積87㎡、基礎は直径約140cmのものを地表面から約80cm下位に12ヶ所設置するものであった。平成27年5月8日に確認調査に着手。時期不明の遺構等を検出したため、掘り下げを行い調査は同日終了した。



第8図 八並城跡調査区位置図 (S=1/2,500)

2) 調査の概要

トレンチ2ヶ所を設定し遺構の有無を確認した。砂利層を30cm除去すると茶褐色の地山に至った。南側のトレンチは近代の攪乱を受けており遺構は確認できなかったが、北側の1トレンチでは柱穴を確認したため、遺構の時期を確認するため掘り下げを行った。その結果、遺物は出土しなかったため遺構の時期の特定には至らなかった。



第9図 八並城跡遺構配置図 (S=1/200)

3) 遺構

確認された柱穴状遺構は19基。遺構の長径は平均で20cm前後と小型のものが大半を占め、深さも20cm前後であった。埋土は暗茶褐色土が多く、固く締まっていた。

4) 小結

調査地の明治期の地目も畑地であり、実際その聞き取りも得ている。今回検出した遺構は砂利層の直下で検出しており、過去の造成で地山が削られている可能性が高い。検出した遺構の直径が小さいこともその影響であろう。時期不明ながらモラロジー研究所内に残る堀跡の存在、周囲の八並城跡の堀跡・土塁の存在から中世に構築された遺構である可能性があるが、確かなことは現時点では不明である。

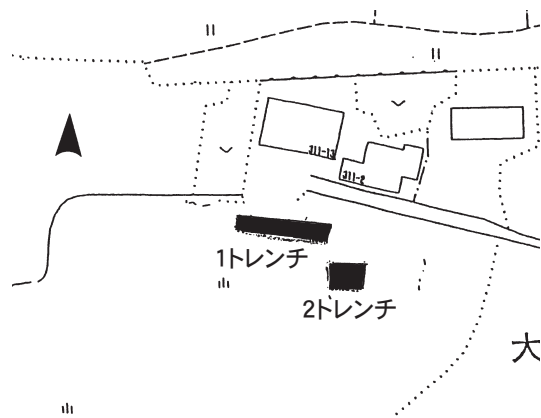


写真5 八並城跡トレンチ状況(東から)

3. 合馬遺跡

1) 調査に至る経緯

平成27年2月20日、周知遺跡である合馬遺跡において太陽光発電建設の文化財保護法93条第1項の届出がなされた。遺跡は、大新田の砂丘地帯に突き出た大貞丘陵先端に位置する。この土地は、旧富士三機製鉄株式会社の社宅地として開発された通称「緑ヶ丘」と呼ばれていた場所であり、丘陵東側で6世紀後半頃の横穴式石室墳や近世前半の火葬骨蔵器を検出したガラヌノ遺跡がある。



第10図 合馬遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)

2) 確認調査

平成27年5月27日～29日まで行った。丘陵先端に東西長6.5m×南北幅1.2mの1トレンチを設定した。表土下0.8mの所で基盤層となり、それを切り込んで東側に二段堀の土壇墓状のもの、西側には中央に不定形土坑を検出した。

土壇墓状のものは弥生時代～古墳時代初頭前後の墓と思われたが、遺構覆土中より現代の薬瓶が出土したところから攪乱土坑と判断した。

西側の不定形土坑の覆土中より中世後半頃の土師質土器羽釜片が出土している。



写真6 合馬遺跡トレンチ状況

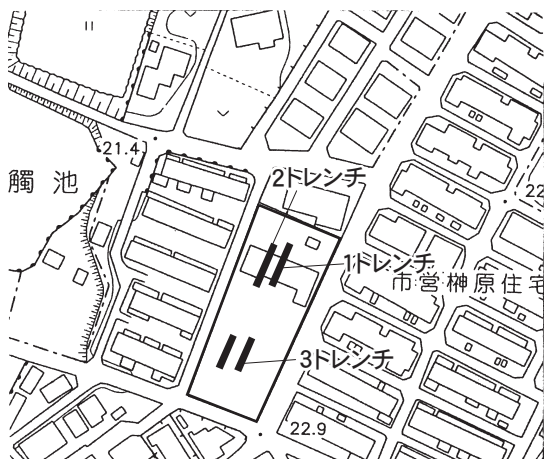
1トレンチの北東側の丘陵部に東西長4.3m×南北長4mの2トレンチを設定して遺構確認を行った。その結果、表土下0.2mのところ現代の土管、セメント基礎、水鉢などが検出されたことから旧富士三機製鉄株式会社の社宅基礎であると判断した。

なお、15世紀後半の万徳坊領田畠坪付総帳に、「逢間迫」「逢間生阿屋敷」「逢間孫三郎屋敷」「逢間堀内」「逢間又三郎屋敷」など中世の武家屋敷名が書かれており、中世にこの地域が大きく開発された可能性が高い。

弥生時代～古墳時代の土壇墓状遺構からは現代の薬瓶以外は遺物の出土が無く、また中世の遺構もほとんど削平を受けていることから本調査には至らなかった。

4. 中原遺跡

1) 調査に至る経緯



第11図 中原遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)



写真7 中原遺跡トレンチ状況 (南から)

平成27年6月18日、中津市大字中原393番2外にて集合住宅建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。床面積約各220㎡、北棟の基礎は直径約50cmの柱状改良杭を施工する2棟の建設が予定された。南棟の基礎は幅1～1.4mの布基礎を深さ約40cmに施工するものであった。平成27年6月23日に確認調査に着手。柱穴を検出したため掘り下げを行った。

2) 調査の概要

北側の1・2トレンチでは地表面から50cm下位にて茶褐色の軟質地山に至り、南側の3トレンチでは約40cm下位で茶褐色の硬質地山に至った。柱穴を約20基検出したが、全ての柱穴を時期不明と判断した。4トレンチでは遺構は検出できていない。

3) 遺構

1・2トレンチの柱穴埋土は、フカフカした暗灰褐色土で2基の柱穴から古墳時代の可能性のある遺物が各1点出土したが、埋土に締まりがない点、地表面から地山までの時期不明堆積土と柱穴埋土が同質である点などから、古墳時代の遺構と判断していない。3トレンチの柱穴埋土は、よく締まり色調も黒色が濃く1・2トレンチのものと異なる。基礎はこの面を破壊しないことから、掘り下げは一部の柱穴の半截に留めた。

4) 小 結

1・2トレンチと3トレンチの地山は軟質と硬質という異なる状況から、3トレンチ付近はかつて地下げを伴う造成が行われた可能性が高い。時期不明ながら柱穴を一定量検出したことから、周辺の開発の際は注意を要する。



第12図 中原遺跡遺構配置図 (S=1/300)

5. 臼木遺跡

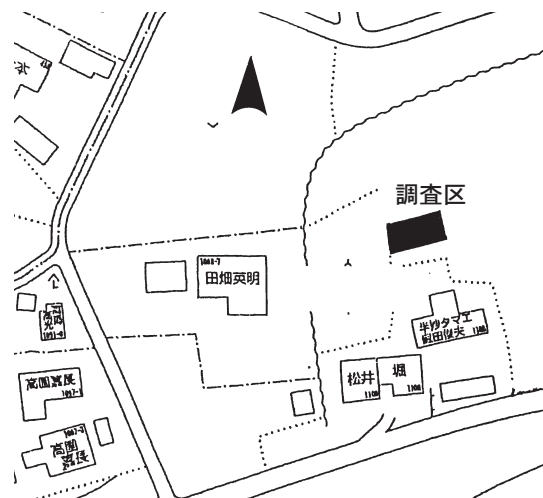
1) 調査に至る経緯

平成27年9月16日に周知遺跡である臼木遺跡において住宅建設の文化財保護法93条第1項の届出がなされた。臼木地区の台地の東側縁辺には市内では珍しい6世紀後半前後の横穴式石室を主体部にもつ円墳が4基群集している。また、諫山から臼木にかけての台地上には、弥生時代中期頃から後期にかけての拠点集落が存在することが、東九州自動車道建設の事前調査で明らかになった。

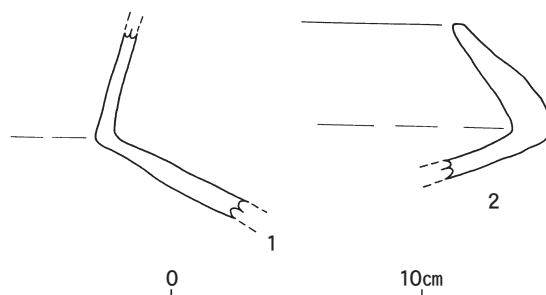
2) 確認調査

調査区は開発場所の南端の平坦地に2m×5mのトレンチを設定して遺構確認を行った。その結果、トレンチ中央の深さ0.8m前後のところ、長さ2m以上の黒色粘質土の落ち込みが認められ、竪穴状遺構であろうと推定した。その上面から弥生時代後期前半頃の壺型土器片が出土した。

基礎は遺構面まで達しないことから、埋め戻して調査を終了した。



第13図 臼木遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)



第14図 臼木遺跡竪穴状遺構上面表採遺物 (S=1/3)



写真8 臼木遺跡トレンチ状況

6. 犬丸城跡

1) 調査に至る経緯

平成27年12月24日に周知遺跡である犬丸城跡において太陽光発電建設の文化財保護法93条第1項の届出がなされた。

犬丸城は、中世土豪犬丸氏の居城跡である。犬丸氏は、下毛郡代野仲氏の一族と言われており、15世紀前半に犬丸主計允、犬丸長門入道、16世紀中頃には犬丸中務丞などの犬丸氏一族の名前が出てくることから文献上犬丸氏は、野仲郷代官であった可能性が高い。さらに、「中津歴史」では天正十五年（十六年の間違いか）に「如水、犬丸越中守ノ居城ヲ毀チ、其材木ヲ以テ、中津城ヲ修造ス」とあり、また『下毛郡誌』は「城址約六町歩と称せらる。周圍に堀の跡あり、又、構口、五段口、水門口、一矢口等の字を在し、河入と伝ひて堀続きに、五六坪の溜池あり、水底悉く石畳を以てし、是れ当年の馬盥なるべし」と記してある。また、江戸中期に犬丸氏の顕彰碑が2基建てられている。

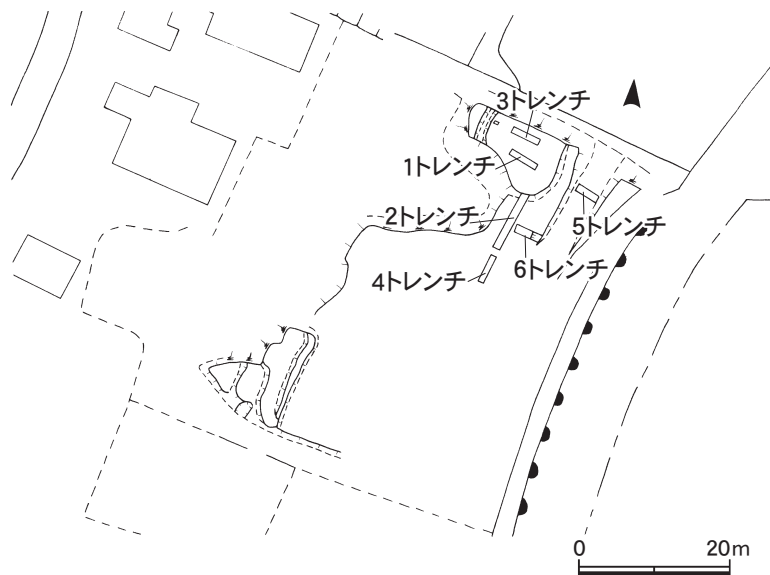
2) 確認調査

平成28年1月5日～15日まで手掘りで行った。調査の目的は、『下毛郡誌』に記載されている城跡の保存状態の確認と城跡内にある堀、口名称の確認である。犬丸城のあった丘陵は、昭和51年の犬丸工業団地造成によって土地造成がなされており、遺構の残り具合を確認する意味も併せてあった。

現状の犬丸城跡は、南側は西側に一部高まりのある畑地で地元民の話によると元々高まりの部分まで畑地は高かったが、工業団地造成時に削平し、土砂を埋め立てに用いたとのことであった。北側は竹林、雑木林が繁茂しており、また北端は大きく削られている。



第15図 犬丸城跡調査区位置図 (S=1/2,500)



第16図 犬丸城跡縄張図およびトレンチ位置図 (S=1/2,000)



写真9 犬丸城跡1トレンチ (東から)

調査は、北側の高まりとその東側にある窪みを中心に行った。高まりの部分に幅約1 m×長さ約4 mのトレンチと幅約1 m×長さ約2.5 mのトレンチ（1・3トレンチ）を設定して高まりの性格を確認した。その結果、両トレンチとも硬質の暗茶褐色粘質土と暗黄褐色粘質土の互層で版築されているところから、櫓台の可能性が高い。また、この櫓台状の遺構は、南側を地山削り出しで造っている。この櫓台状の遺構からは遠く周防灘を見通すことができる。



写真10 犬丸城跡1トレンチ南壁

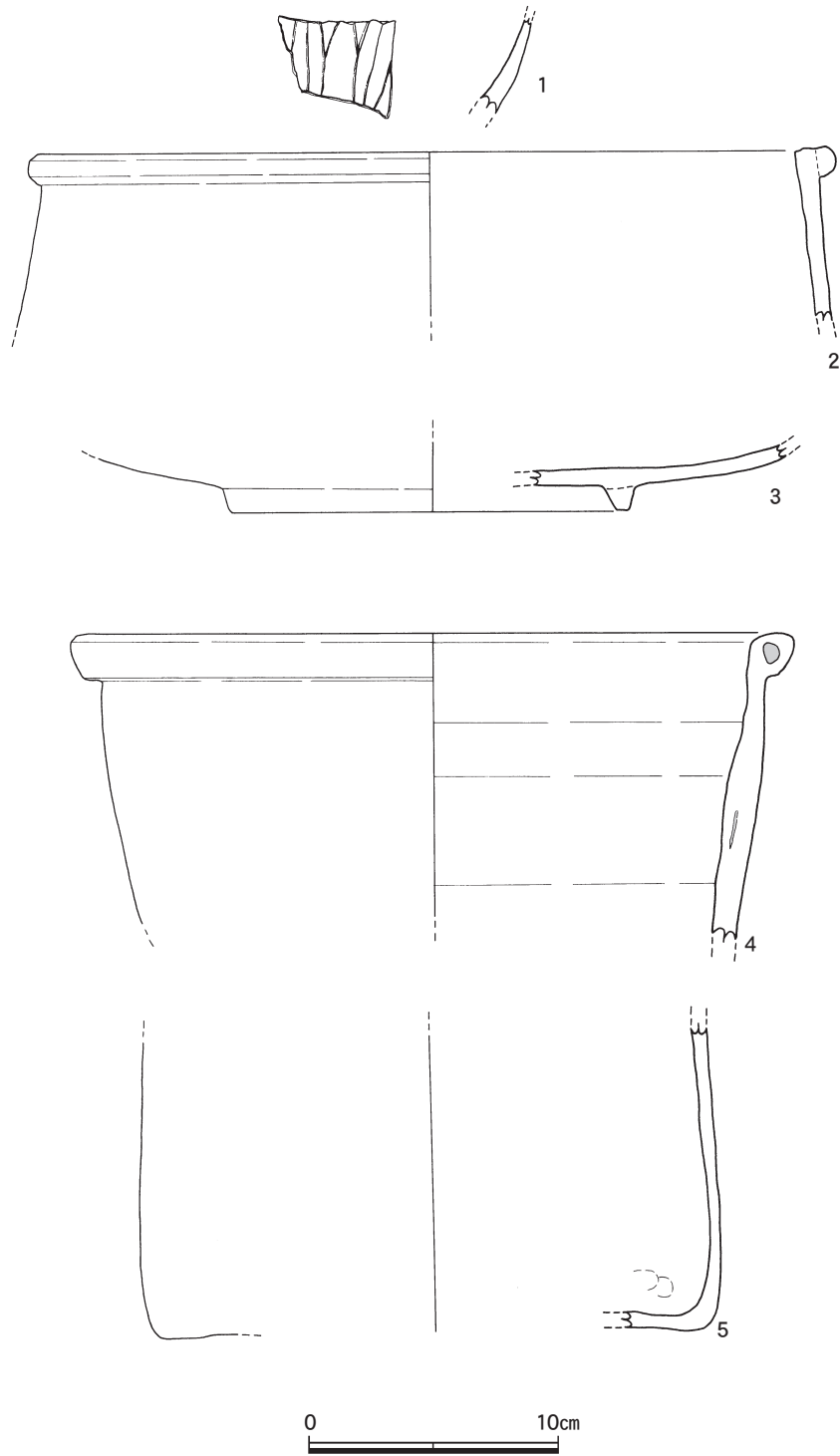
出土遺物は、1トレンチ2層暗黄褐色土中より多数の遺物が出土しており土師質火鉢片、瓦質火鉢片、鎬蓮弁の中国龍泉窯陶磁器片などが認められた。

東側窪み部分は、上層には平坦面にあった家屋の残骸が堆積していたが、中層～下層にかけては南北にのびる堀の埋土が検出された。堀跡は表土下約5 mで床面に達し、その地点から瓦質の火鉢片が出土した。遺物の時期は、龍泉窯陶磁器片が13～14世紀代のもので、それ以外のものは、15世紀～16世紀前半頃のもので上記文献の時期に一致する。

埋戻しを行い調査を終了した。



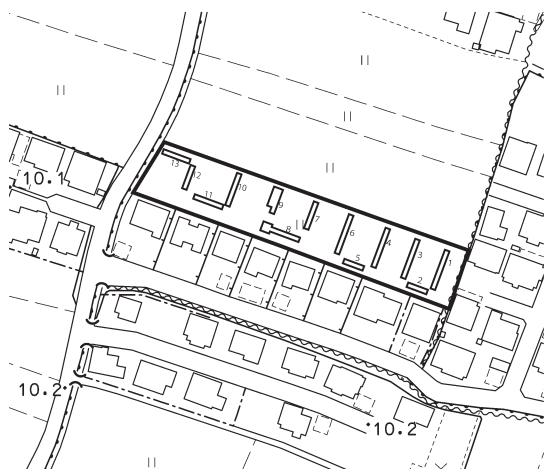
写真11 犬丸城跡堀跡状況



第17図 犬丸城跡出土遺物 1トレンチ(1~3)、5トレンチ(4・5) (S=1/3)

7. 沖代地区条里跡

(1) 沖代町二丁目 110 番 1



第18図 沖代町二丁目 110番1調査区位置図 (S=1/2,500)

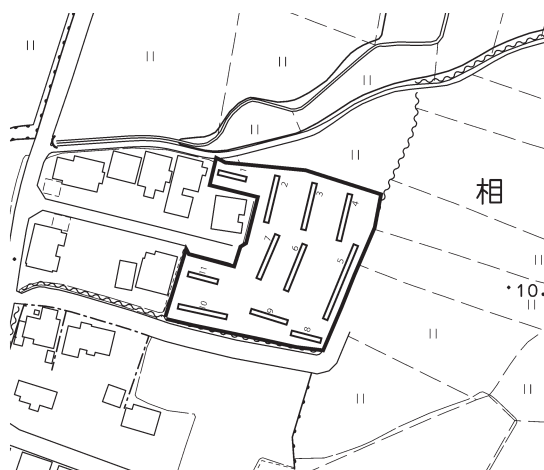


写真12 沖代町二丁目 110番1 トレンチ状況

平成27年6月24日、中津市沖代町二丁目110番1における宅地造成の文化財保護法第93条第1項の届出が市教委に提出された。これを受けて、同年7月30日、遺構の確認調査を行った。

調査地は条里地割の長地割で2段弱の田である。地形と田の区画を捉えるために13本のトレンチを設定した。対象地の中央部分にあたる7・8・9トレンチで一番地形が高くなり、樹根や倒木跡を確認した。地山は黄灰色シルトが堆積する。その他のトレンチでは地山は粘質の灰色シルトが堆積し水がしみ出る状況であった。遺構・遺物は確認していない。

(2) 相原字石原 3795 番 14、3797 番 1、3797 番 4、3798 番 3



第19図 相原字石原地区調査区位置図 (S=1/2,500)

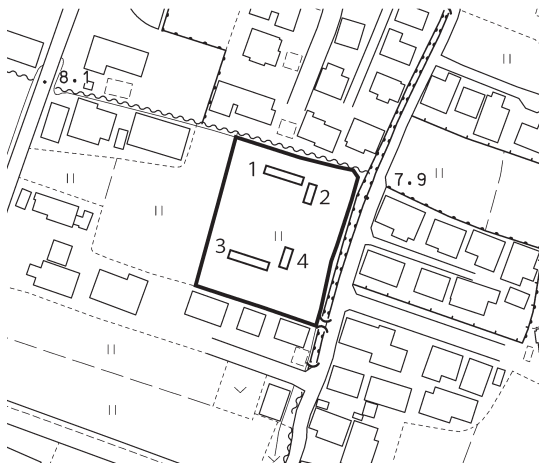


写真13 相原字石原地区 トレンチ状況

平成27年6月24日、中津市相原字石原3795番14、3797番1、3797番4、3798番3における宅地造成の文化財保護法第93条第1項の届出が市教委に提出された。同年8月3日、遺構の確認調査を行った。

調査は、地形と田の区画を捉えるように11本のトレンチを設定して行った。地形は南東に位置する5トレンチで一番高くなっている。2・5・7トレンチで近現代の水田耕作土の下に黒褐色土の堆積を確認したが、大幅に近現代の耕作土に削平されていた。5トレンチでは検出面に黒褐色土の不整形プランを確認し、一部を掘削して確認したが、地形の窪みに堆積したものと判断した。遺構・遺物は確認していない。

(3) 沖代町二丁目73番6



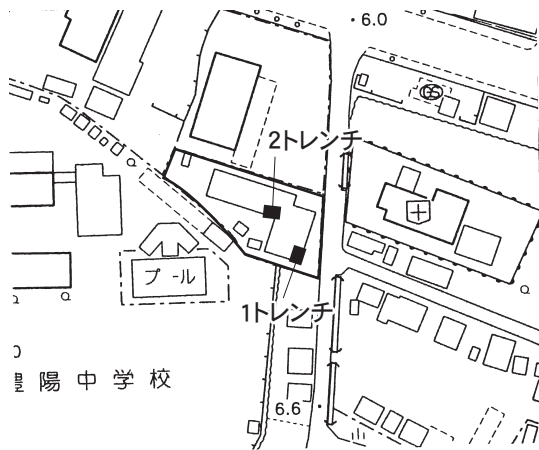
第20図 沖代町二丁目73番6調査区位置図 (S=1/2,500)



写真14 沖代町二丁目73番6 トレンチ状況

平成27年6月10日及び7月2日、中津市沖代町二丁目73番6における2件の集合住宅建設の文化財保護法第93条第1項の届出が市教委に提出された。これを受けて、同年8月5日、遺構の確認調査を行った。建屋位置に4本のトレンチを設定した。調査の結果、現代の耕作土の下は灰色シルトの堆積であった。また、4トレンチでは現代の暗渠排水を確認したことから当地点は排水の悪い深田であったことが分かる。遺構・遺物は確認していない。

(4) 中央町一丁目36番4外



第21図 中央町一丁目調査区位置図 (S=1/2,500)



写真15 中央町一丁目 1トレンチ (東から)

平成27年8月28日、中津市中央町一丁目36番4外の(株)アステム敷地内における、店舗建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。約1,000㎡の店舗を建設し、建物下は直径1mの柱状改良を施工するものである。平成27年11月24日、建設予定地に2ヶ所トレンチを設定し確認調査を実施した。地表面から2.5～3m掘り下げたが、鉄筋などを含む堆積層が検出され、下位からコンクリート基礎などを検出した。調査地は過去に地山を掘削する大規模な造成が行われたものと判断し、同日調査を終了した。

(5) 中央町二丁目467番12

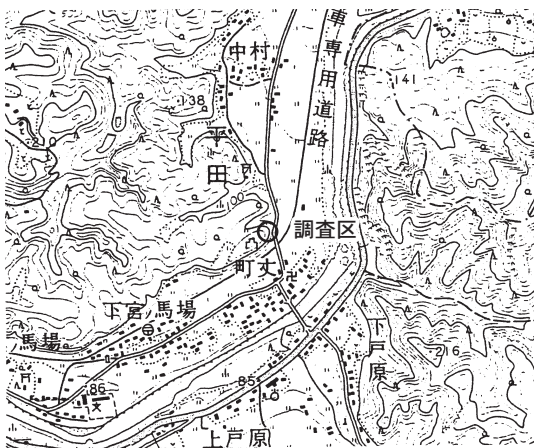


第22図 中央町二丁目調査区位置図 (S=1/2,500)

写真16 中央町二丁目トレンチ状況 (東から)

平成27年11月9日、中津市中央町二丁目467番12における、個人住宅建設に伴う文化財保護法93条第1項の届出が提出された。約77㎡の住宅を建設し、建物下は深さ3mの柱状改良を計11本施工するものである。平成27年12月2日、トレンチを1本設定し確認調査を実施した。70cmは現代の造成土、その下は層厚15cmの灰褐色粘質土(水田層)、その下は層厚10cmの暗茶褐色粘質土、その下は層厚10cmの漸移層、その下は遺構検出可能な茶褐色砂質土に至ったが、遺構・遺物は発見できなかった。

8. 中村遺跡

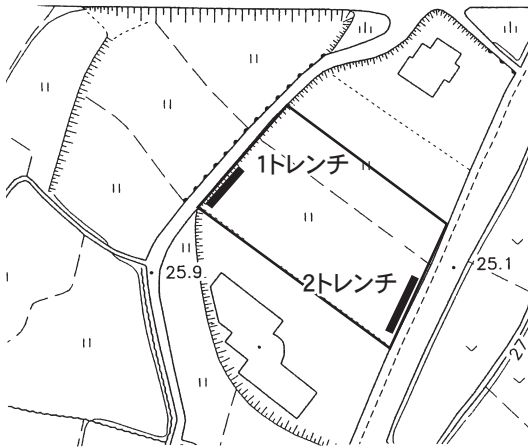


第23図 中村遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)

写真17 中村遺跡トレンチ状況 (南から)

平成27年12月24日、中津市耶馬溪町大字平田948-4にて公共駐車場・トイレ建設に伴う文化財保護法94条第1項の通知が提出された。建物面積は約32㎡、深さ77cmの位置までベタ基礎を施工するものであった。平成27年12月28日、トイレ建設予定範囲にトレンチを設定し、遺構・遺物の確認を行ったがそれらは発見できなかった。地表面から下は層厚20cmの現代の砂利層、その下は層厚25cmの水田層、その下は圃場整備の際に持ち込まれたと見られる大石混じりの砂質層であった。

9. 法垣遺跡・黒水遺跡



第24図 法垣遺跡・黒水遺跡調査区位置図 (S=1/2,500)

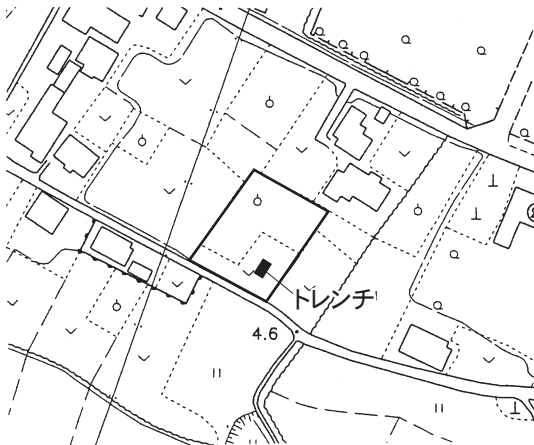


写真18 法垣遺跡・黒水遺跡1トレンチ状況(南から)

平成27年8月10日、中津市大字加来1542番1外の水田内における、道の駅なかつ新駐車場建設に伴う文化財保護法94条第1項の通知が提出された。駐車場は3,506㎡の範囲に計画され、市道・農道沿いにL型擁壁を地表面から深さ1m下位に設置し舗装するものであった。平成27年10月6日、確認調査に着手した。L型擁壁設置範囲に長さ10m×幅1mのトレンチを設定した。80～90cm下位で黄褐色粘質土の地山を確認したが遺構は検出できず、2トレンチにて須恵器・瓦器碗・打製石斧の破片を各1点ずつ発見した。遺物は流れ込みと判断し調査は同日終了した。

10. 周知遺跡外

(1) 東浜原口地区



第25図 東浜原口地区調査区位置図 (S=1/2,500)



写真19 東浜原口地区トレンチ状況(南から)

平成27年6月2日、中津市大字東浜271-4にて集合住宅建設に伴う文化財包蔵の照会がなされた。建物面積は約250㎡で駐車場範囲に合併浄化槽を敷設する計画であった。現地は周知遺跡範囲外であったが、周辺の調査歴が少ないため試掘調査を実施した。平成27年12月11日、合併浄化槽位置にトレンチを設定し、地表面から90cm下まで掘削したが、遺構・遺物は発見できなかった。土質は地表面から砂土で下層は灰色を呈していた。

(2) 鍋島向地区

1) 調査に至る経緯

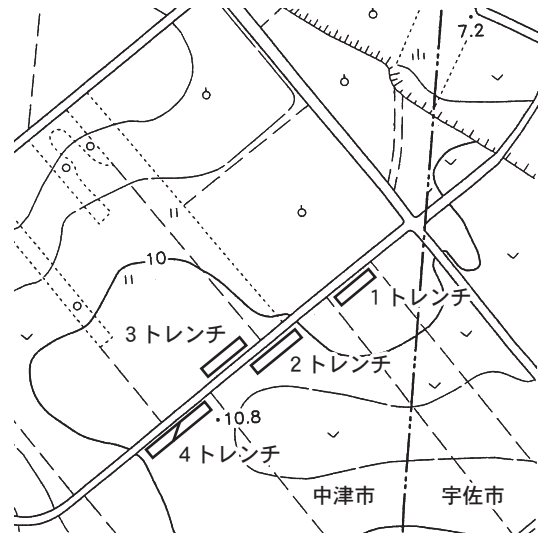
平成26年度10月、大分県北部振興局より中津市大字鍋島160外における県営農道整備事業にともなう埋蔵文化財の照会が中津市教育委員会になされた。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、地形や周辺の遺跡の分布から試掘調査の実施を要請した。大分県北部振興局と協議をした結果、平成27年度の試掘調査の実施が決定した。

2) 試掘調査

調査地に4本のトレンチを掘削し遺構の有無を確認した。表土から約20cm掘り下げ、褐色の地山に達した。4トレンチで溝状遺構が1条検出された。検出された遺構はこれのみで、遺物も確認されなかった。以上の状況から試掘調査で溝状遺構の発掘を判断した。溝状遺構は南北に走り幅は約30cm、深さ約20cm、暗褐色のしまった土層であった。出土遺物は1点で挿鉢の底部である。近世か。平底で産地は不明。

3) 今後の措置

発掘した溝状遺構は記録保存した。試掘調査でこれ以外の遺構、遺物が検出されなかったことから、本調査は不要と判断した。しかし今回の溝状遺構の発見で周辺を鍋島向遺跡として新規遺跡登録の報告をし、平成27年6月18日、遺跡台帳へ登録された。



第26図 鍋島向地区調査区位置図 (S=1/2,500)



写真20 鍋島向地区溝状遺構

第3章 中近世城館確認調査 (3)

1. 調査に至る経緯

平成25年度から国庫補助を受け市内の城館の確認調査を行っている。県内の中近世城館の確認調査は大分県教育委員会が平成7年度～15年度まで既に実施している。しかし、県調査において、旧下毛郡部を中心に調査が手薄であったため、市内全域の詳細不明城館の探索及び既知の城館の再確認を行い、開発への備えや重要城館の指定を目指すことなどを目的に本事業は進められている。

2. 調査の経過

事業開始から3年目を迎えた今年度は6月と9月に中津市城館総合調査委員会を開催し、以下の



第27図 中近世城館調査現地確認位置図 (S=1/200,000)

点が主な調査・整備方針として示された。

- 内容確認の必要がある50か所の現地踏査（遺構確認）を行うこと。
- 老人クラブに出向き聞き取り調査を行うこと。
- 総合調査は平成32年度から平成33年度まで延長する。
- 平田城跡（耶馬溪町所在）は崩落危険個所に限定しネット掛けを行うこと。

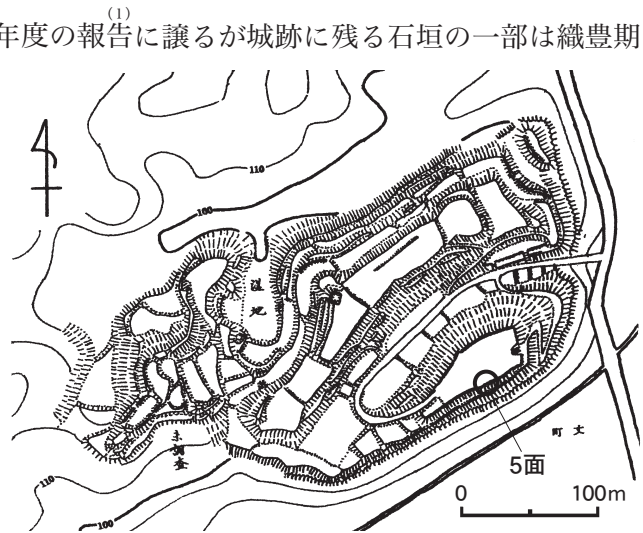
今年度行った確認調査の内、平田城跡の石垣の現況確認、諏訪城跡、三光上深水地区、三光下深水地区、本耶馬溪跡田地区の報告を以下に行う。なお、聞き取り調査は今年度、老人クラブ10団体に対して行い、遺構確認を目的とした踏査は28箇所実施した。

① 平田城跡

中津市耶馬溪町大字平田に所在する。城は平田集落を見下ろす標高117mの台地先端部にあり、麓との比高差は約40mを測る。平田城跡は、国指定名勝耶馬溪の中で「平田城跡の景」としてその構成要素の一つである。

平田城跡の歴史や縄張りについて、詳細は前年度の報告⁽¹⁾に譲るが城跡に残る石垣の一部は織豊期の遺構とされる。今後は、平田城跡の各石垣について個別に構築年代を考察する必要がある。今年度はその中で石垣の変位が強い部分を中心に観察を行った。観察した箇所はI区の忠霊塔南側の石垣（5面）である。この部分は石垣の崩落が進んでおり、委員会においてネット掛けなどの保護措置が必要とされた箇所にあたる。

築石の石材は他所と比べて川原石を多用しており、城内の16世紀末の石垣に使用される凝灰岩を用いていない。また、積み方は落し積みが見られ、布目崩し積みにする他所とは異なる。天端は沈下が認められ、石垣の老化現象が他所より進行している。以上の特徴からこの面の石垣は後世の積み直しなどが想定される。来年度以降、順次平田城跡石垣の観察を行い、詳細な時期を検討していきたい。



第28図 平田城跡縄張図（中村修身氏提供）



写真21 平田城跡5面石垣

② 諏訪城跡



第29図 諏訪城跡調査区位置図 (S=1/25,000)

中津市大字永添1472-2に所在する。地元では「すわんしろ」と呼称されている。恐らく「すわのしろ」が転訛したものであろう。明治21年の地目図を見ると、中心部

部分が土塁と思われる山で囲まれていることがわかる。土塁は北西角部で堀を伴い、ここが主郭と考えられる(曲輪Ⅰ)。平成27年12月7日、現地確認を行った。曲輪Ⅱは現在も地形が他より一段高く残る。曲輪ⅠはⅡより低い現況であるが、当該地に居住している岩久氏への聞き取り(以下、伝聞調は全て同氏への聞き取り)では、これは畑地造成のために土地を切り下げた結果とのことであり、従来は曲輪ⅠがⅡよりも高所であったとのことで、さらに曲輪Ⅰは3段程度の高低差を有していたという。曲輪Ⅰ周囲の土塁は、現在も北側と西側で見ることができ、土塁幅は2～3m程度で竹が繁茂する。北辺の土塁は両サイドに堀跡が残る。西辺の土塁は曲輪内側に堀跡があり、曲輪外側は一部埋没しているがかつて堀であったという。南辺の土塁の曲輪内側は土塁と並行する溝があるが、これも堀跡であったとのことである。堀跡は現在でも内堀・外堀と呼ばれており、曲輪Ⅲも地目図を見ると土塁が巡っていたことがわかる。また、曲輪Ⅰ～Ⅲ周辺は一辺120～130mの細い道で圍繞されている。

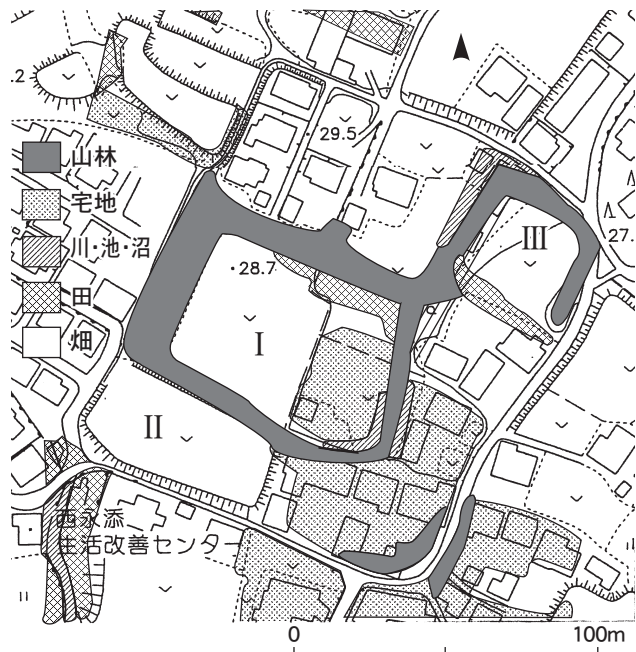
これらのことから、曲輪Ⅰの土塁は基本的に両側に堀を伴う構造であった可能性がある。また、各曲輪を圍繞する道が堀跡とすれば、主要施設を略方形状に堀で囲む姿を想定できる。

その他、地下げの際、刀のつばなどが出土したという。また、曲輪Ⅰの土塁の竹藪内に五輪塔があり、それを岩久家の墓地に移したとのことである。実際、墓地で五輪塔の空輪などを確認した。さらにここに岩久弾正という人物がいたとの話が伝わるが、古文書に登場する人物であるかなど今後のさらなる調査が必要である。

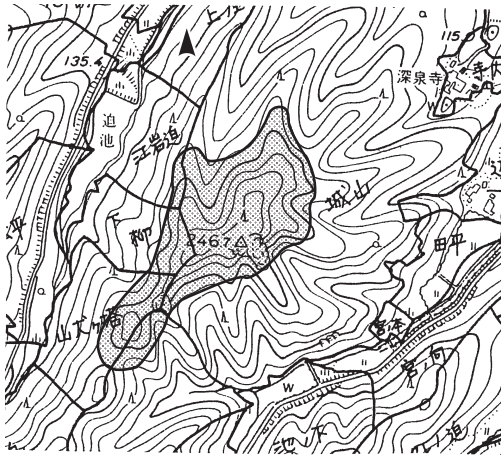
③ 三光上深水地区

中津市三光上深水の深泉寺の裏山に「城山(しろやま)」の小字があり、現地踏査を平成27年12月24日に行った。

辺割集落から約30分で頂上へ至る。頂部に曲輪と考えられる平坦面を2段確認した。また、北へ



第30図 諏訪城跡地目色分図 (S=1/2,500)



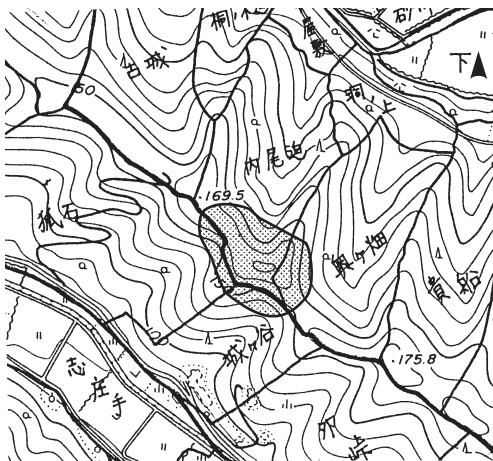
第31図 三光上深水地区調査区位置図 (S=1/12,000)



写真22 三光上深水地区階段状曲輪

派生する2つの尾根には堀切や階段状曲輪が配されている。南側は急崖であり遺構は敷設されていない。西へ延びる細尾根には豎堀状のものが見られたが、判然としなかった。

④ 三光下深水地区



第32図 三光下深水地区調査区位置図 (S=1/12,000)



写真23 三光下深水地区畝状豎堀群

中津市三光下深水地区、「古城（ふるしょう）」「城ヶ谷（しろがたに）」の小字周辺を平成27年12月24日に現地踏査を行った。

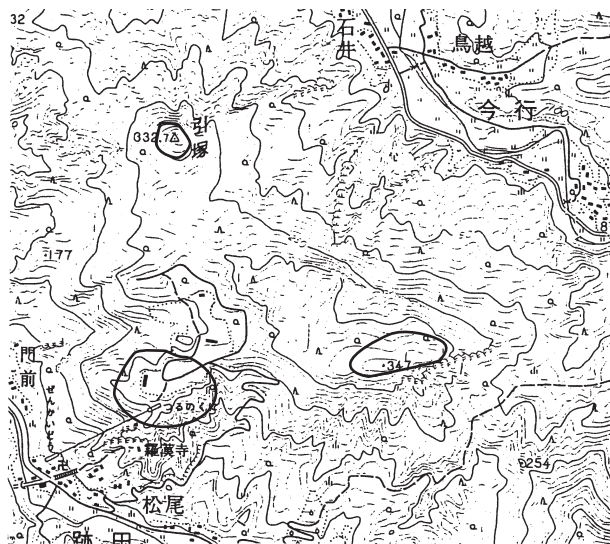
古城周辺では、東隣の小字「内尾迫（うちのぎこ）」との境付近に幅3m程度の堀切がある。さらに進むと堀切が2条あり、最奥の堀切では西側に堀内での西進を阻むような石を張り付けた土塁が構築されている。堀切西側は帯曲輪が巡っており、その帯曲輪を南に辿ると数条の豎堀からなる畝状豎堀群がある。帯曲輪の先は横堀状を呈し、途中クランクする。その先にも数条の豎堀があるが竹木の影響で本数は判然としない。尾根上に主郭と見られる高まりがあり、西側に3～4段の帯曲輪が巡る。畝状豎堀群から上の帯曲輪までは3m程度の切岸とする。主郭の南と西辺に高さ50cmの土塁を廻す。主郭北側下の曲輪には高さ1m程の土塁が廻っており法面内側に石を張り付けている。

東へ延びる尾根には遺構は見当たらない。小字「内尾迫」を中心としてコンパクトに遺構群が展開する状況である。畝状豎堀群の位置から西への備えの意識が窺える。

⑤ 本耶馬溪町跡田地区

中津市本耶馬溪町跡田に羅漢寺が所在する。羅漢寺は、天正年間にキリシタン大名大友宗麟に焼き討ちされた伝承⁽²⁾があるため、羅漢寺背後の羅漢山一帯の踏査を平成28年1月22日に行った。

羅漢山とその西側の引塚、及び羅漢寺リフトの頂上部（旧つるの国）周辺の遺構の有無の確認を行った。その結果、遺構は確認できず、山頂部に安山岩の露頭や斜面部に炭焼き窯2基が遺存するのを確認するに留まった。石造物も確認できなかったことを付記しておく。



第33図 本耶馬溪町跡田地区調査区位置図 (S=1/25,000)

- (1) 中津市教育委員会「中近世城館確認調査(2)」『市内遺跡発掘調査概報8』中津市文化財調査報告第72集
(2) 中津市教育委員会『羅漢寺調査報告書I』中津市文化財調査報告第60集 2013 P10

第4章 長者屋敷官衙遺跡

1. これまでの調査のまとめ

遺跡の立地（第34図）

中津市の南東部は下毛原台地と呼ばれる洪積台地となっている。洪積台地上には、南西から北東方向に多数の小規模な谷地形が発達しており、台地上は起伏の多い地形となっている。長者屋敷官衙遺跡の立地もこうした地形を利用し、遺跡の東側と西側は一段低い谷地形となっている。律令の倉庫令に定められた「倉は、みな高く乾燥した処に於くこと。周圍に池渠を開くこと。」という条件を満たす土地を選定したと考えられる。

遺跡の概要（第35図）

長者屋敷官衙遺跡は、平成7年度市営住宅建替えに伴う試掘調査によって発見された遺跡である。これまで11次にわたる調査の結果、規模の分かるもので、礎石建物1棟、掘立柱建物16棟（総柱建物9棟、側柱建物7棟）、区画施設（溝、塀）が確認されている。遺構配置は、溝や塀によって南北約120m、東西約90mの区画の中に建物が南北・東西方向に整然と並ぶ配置をとり、L字型を基調とした配置計画があったと考えられる。遺跡はこれらの特長から古代下毛郡衙正倉跡と推定されている。ひとつの区画内での建物配置の全体が分かる例として評価され、区画と周辺を含めた約16,000㎡が平成22年2月22日に国史跡に指定された。確認された建物のうち、総柱建物は正税帳などにみえる高床倉庫「倉」、側柱建物は低い床を持つ建物である「屋」で、どちらも倉庫として機能していたと考えられている。

確認された倉庫群は、2・3・4・16号建物をのぞいた全ての建物で柱掘方に切り合いが観察され、建替えが確認されている。ほぼ同じ位置で建替えが行われているため、建替え前の柱掘方および柱の大きさは分かっていない。また、これまでの発掘調査区のほぼ全域にわたって、柱穴・溝などで炭化米が検出され、正倉群が火災にあったことが分かっている。しかし、炭化米の混入する量は調査区によって多寡があり、先述した建替え前の建物には炭化米を含む例が少ないなど出土状況は一様ではない。この地で炭化米が出土することは発掘調査以前から地元の人には知られていた。これが、字名「長者屋敷」のもとになったといわれている。

指定地外の調査では、指定地の北東に隣接する10区で側柱建物が2棟確認されている。建物方位、遺構埋土が指定地内の古代遺構に近似することや、建物の柱筋を揃えた計画的配置が認められることから、官衙を構成する建物の一部と考えられ、指定地の遺構群と一連のものと理解できる。また、指定地の南に位置する寺境内の調査では、2区で遺跡の南を区画した溝SD-72・73が見つかり、その北に位置する13区では、SD-72・73に並行する溝SD-70が確認されている。こうした指定地外の確認調査では、正倉関連遺構が指定地の区画の外にも広がることを示している。

出土した遺物の時期から、遺跡は8世紀前半～10世紀前半まで存続したと推定される。

遺構の変遷

平成26年度調査指導委員会では、建物方位、建物間の距離、遺構の新旧関係、火災の状況（炭化米の出土状況）から遺構の変遷を検討し、8世紀前半から9世紀前半までの建物変遷案を提示している。その結果、建物群は①正倉域の創建から最初の火災までの時期（8世紀前半～後半）＝2・3・4・5 a・6 a・7 a・12 a・13 a号建物、②最初の火災から2度目の火災まで（8世紀後半）＝1・5 b・6 b・7 b・8 a・9 a・12 b・13 b号建物、③2度目の火災以降（9世紀前半）＝8 b・9 b・13 cという変遷をたどったと考えられる。なお、a→b→cは建替えを示している。この変遷案には、10・11号建物など検討の余地が大きい建物が入っておらず、10世紀前半までの変遷を判断するに至っていない。

表1 長者屋敷官衙遺跡調査歴

次年度	面積 (㎡)	主な遺構	調査区
1 平成7年度	8,000	SB-1～11、区画施設 (溝状・柵状)	1区
2 平成8年度	5,000	南限の溝	2区
3 平成12年度	3,300	不整形大型土坑	3区
4 平成19年度	500	SB-5の続き、SB-12	4区
5 平成20年度	350	SB-13 (礎石建物)、14、北限の溝、東限の溝	5・6区
6 平成21年度	1,280	北限の溝の続き	7区
7 平成22年度	85.5	中世遺構	8・9区
8 平成23年度	464	古代建物2棟	10区
9 平成24年度	1,600	古墳時代中期竪穴建物2軒	11・12区
10 平成25年度	400	SB-15・16・17・18、区画施設 (溝状)	13区
		南限の溝の続き	14区
11 平成26年度	230	中世遺構	15区
12 平成27年度	450	SB-5、SD-34、SB-13南溝、SA-27の再確認調査	申請地①～④

2. 平成27年度の調査

今年度の調査は、これまでの発掘調査で得られている成果を検討した結果、さらに遺構の状況を確認する必要があるものについて再調査を行っている。調査区は全て指定地内である。

申請地①（写真25）

過去の調査では、5号建物は敷地内を東西に仕切る木柵があり、一部分を残して調査を行ったため、全体形が不明であった。今回、桁行3間梁行3間の建物になるのか、桁行が延びるのかを確認するために調査を行った。また、中世八並城跡の堀に削られている建物の東辺の柱穴についても、堀を一部発掘して柱掘方、柱抜取穴を確認した。

調査の結果、桁行4間梁行3間の建物であることが判明した。柱抜取穴から推定される柱間寸法は、桁方向2.7m（9尺）梁方向2.4m（8尺）である。

申請地②（写真26）

北限の溝とされている東西方向の溝SD-34と、南側に並行する柵S A -23の調査を行っている。SD-34は、2条の溝状遺構の重複である。逆台形型溝が黒色シルトの堆積で埋まった（埋められた？）後、U字型溝が掘られ、灰色細砂が堆積した状況である。最初に掘られた黒色シルトの溝をSD-34 a、灰色細砂の溝をSD-34 bとすると、SD-34 bは溝として機能していたと判断できるが、SD-34 aについては、柱や板を埋設した布掘りの可能性もある。縦断面を観察して判断したい。また、南側の柵S A -23との関係、時期差などを検討する。

SD-34 bの南辺が一部膨らむ箇所について、江戸時代の溝SD-50を発掘して断面形を確認した。結果、楕円形の土坑との重複であると判明した。土坑がSD-34を破壊している状況である。土坑の時期は分かっていない。

申請地③（写真27）

礎石建物13号建物の南溝の性格を判断する調査である。南溝の堆積は、版築状に埋められているが、布掘り柱掘方である可能性が高いことが指摘されていた。今回の調査で、平面形で柱痕跡か抜取穴を確認し、一部発掘して横断面、縦断面を観察する。

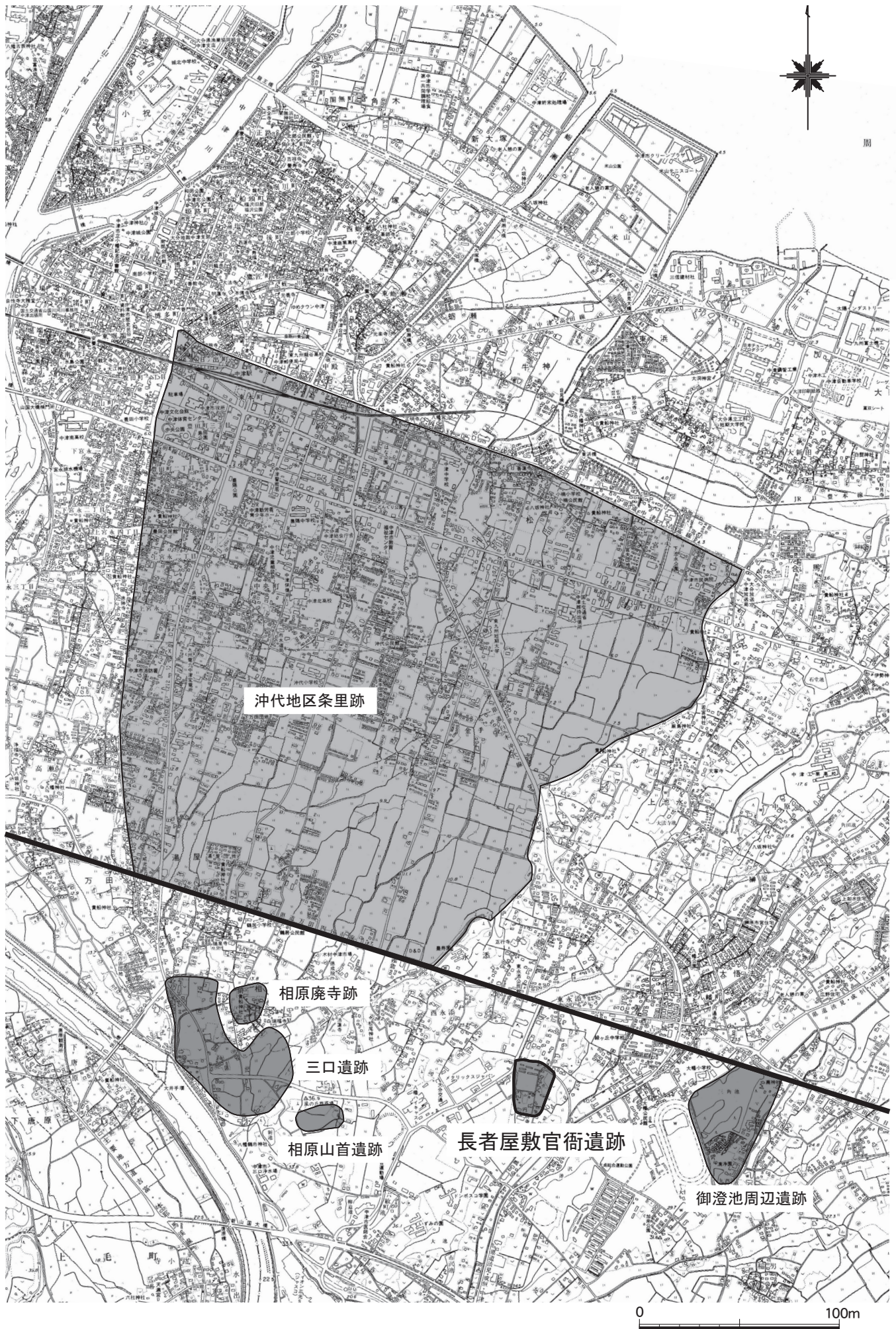
申請地④（写真28）

4区と13区間の確認調査である。4区で確認されているS A -27は柵として報告されているが柱掘方の大きさが0.75～0.9mであり、これは側柱建物と同じ規模であることから、建物になる可能性を考え調査区を設定した。結果、東側には対となる柱掘方は認められなかった。また、S A -27の北側延長線上に柱掘方を1基確認した。来年度は西側の状況を確認する予定である。

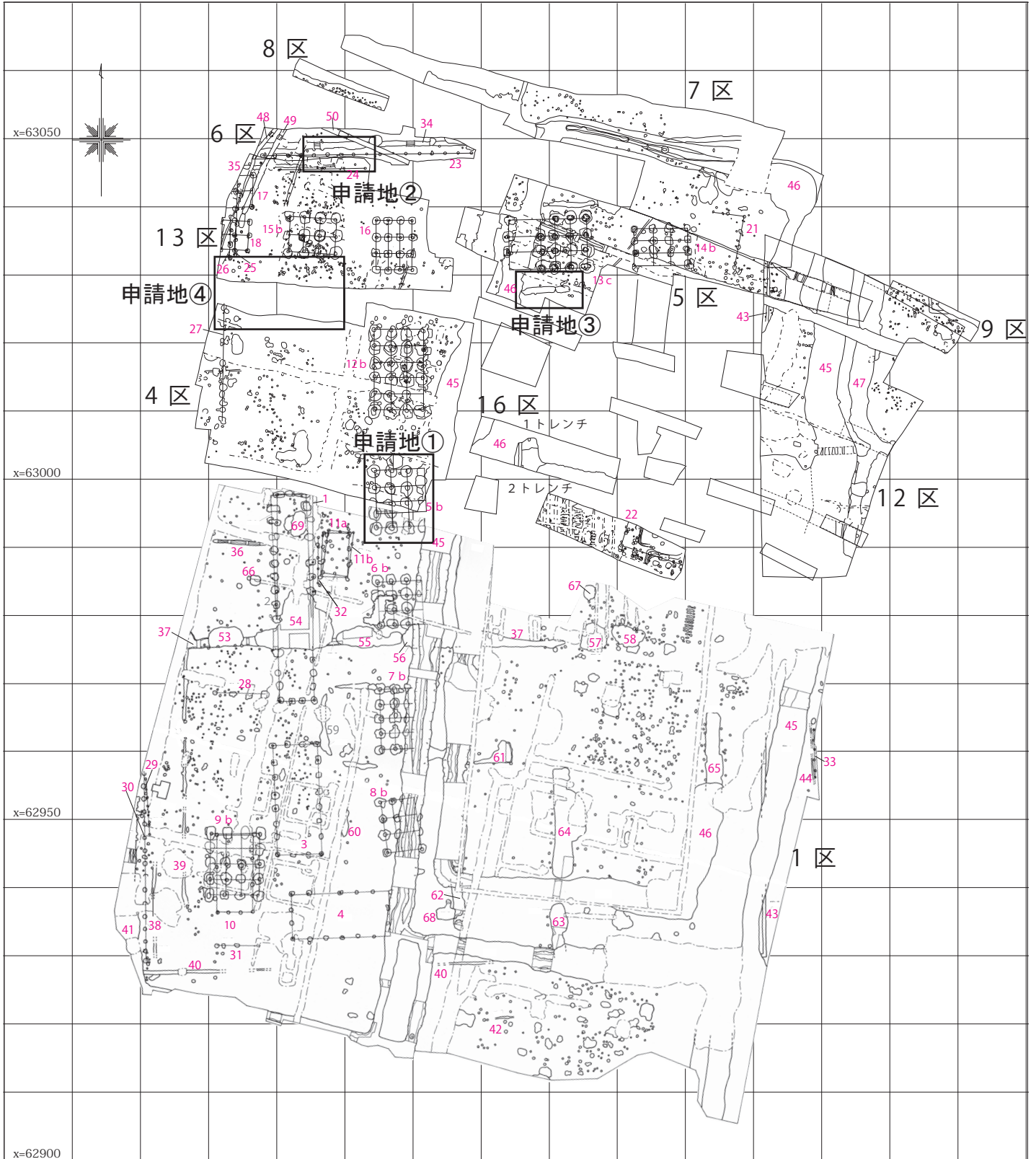
<参考文献>

中津市教育委員会『長者屋敷遺跡』中津市文化財調査報告書第26集 2001

中津市教育委員会『長者屋敷官衙遺跡4～11次調査』中津市文化財調査報告書第73集 2015



第34図 長者屋敷官衙遺跡と周辺の古代遺跡 (S=1/2,500)



第35図 長者屋敷官衙遺跡 史跡指定地内遺構分布図 (S=1/800)



写真24 長者屋敷官衙遺跡調査区全景（北から）



写真25 長者屋敷官衙遺跡申請地① 上：全景、下：SB-5 Pit3（西から）



写真26 長者屋敷官衙遺跡申請地② 上：全景（西から）、下：SD-34断面（西から）



写真27 長者屋敷官衙遺跡申請地③ 上：全景（東から）、下：南溝縦断面（南から）



上：長者屋敷官衙遺跡申請地④全景（西から）
右：長者屋敷官衙遺跡SA-27（北から）
（一番手前の柱掘方が新発見）



写真28 長者屋敷官衙遺跡申請地④

報告書抄録

書名	しないいせきし かつかくにん ちょうさ ちゅうきん せいじょうかん かつかくにん ちょうさ ちょうじゃ や しきかん が いせき 市内遺跡試掘確認調査 中近世城館確認調査 (3) 長者屋敷官衙遺跡								
副書名	市内遺跡発掘調査概報								
巻次	9								
シリーズ名	中津市文化財調査報告								
シリーズ番号	第75集								
編集者名	花崎 徹 浦井 直幸 丸山 利枝 村上 久和								
編集機関	中津市教育委員会								
所在地	〒871-8501 大分県中津市豊田町14番地3 TEL 0979-22-1111								
発行年月日	2016年3月31日								
所収遺跡名	所在地	市町村コード	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	面積	調査原因	
市内遺跡試掘確認調査	中津城下町遺跡 30次	大分県中津市3丁目 34外	44203	203002	33° 36′ 24″	131° 11′ 45″	20150409	15㎡	店舗建設
	中津城下町遺跡 34次	大分県中津市1369 番地外	44203	203002	33° 36′ 26″	131° 10′ 57″	20151222	45㎡	図書館駐車場 建設
	中津城下町遺跡	大分県中津市2279-1 外	44203	203002	33° 36′ 14″	131° 10′ 35″	20151119	9㎡	集合住宅建設
	中津城下町遺跡	大分県中津市2217-1 外	44203	203002	33° 36′ 13″	131° 10′ 35″	20151218	10㎡	集合住宅建設
	八並城跡	大分県中津市大字 永添2367-1	44203	203046	33° 34′ 24″	131° 12′ 11″	20150508	15㎡	東屋建設
	合馬遺跡	大分県中津市大字 合馬149番地外	44203	203013	33° 35′ 42″	131° 13′ 11″	20150527 ~ 20150529	32㎡	太陽光発電 施設建設
	中原遺跡	大分県中津市大字 中原393番2外	44203	203031	33° 34′ 40″	131° 13′ 51″	20150623	40㎡	集合住宅建設
	臼木遺跡	大分県中津市三光 臼木1104-3外	44203	203154	33° 32′ 14″	131° 10′ 46″	20150928	20㎡	個人住宅建設
	犬丸城跡	大分県中津市大字 犬丸290外	44203	203097	33° 34′ 20″	131° 15′ 21″	20160105 ~ 20160116	21㎡	太陽光発電 施設建設
	沖代地区条里跡	大分県中津市沖代町 2丁目110番1	44203	203007	33° 35′ 07″	131° 11′ 34″	20150730 ~ 20150731	211㎡	宅地造成
	沖代地区条里跡	大分県中津市大字 相原3797-1	44203	203007	33° 35′ 62″	131° 11′ 32″	20150803 ~ 20150804	237㎡	宅地造成
	沖代地区条里跡	大分県中津市沖代町 2丁目73番6	44203	203007	33° 35′ 49″	131° 11′ 33″	20150805	30㎡	集合住宅 建設
	沖代地区条里跡	大分県中津市中央町 1丁目36番4	44203	203007	33° 35′ 49″	131° 11′ 33″	20151124	12㎡	店舗建設
	沖代地区条里跡	大分県中津市中央町 2丁目467番12	44203	203007	33° 35′ 31″	131° 11′ 14″	20151202	14㎡	個人住宅 建設
	中村遺跡	大分県中津市耶馬溪 町大字平田948-4	44203	203227	33° 28′ 37″	131° 08′ 39″	20151228	10㎡	トイレ建設
	法垣遺跡・黒水 遺跡	大分県中津市大字 加来1542番1外	44203	203071 203072	33° 33′ 17″	131° 12′ 36″	20151006	40㎡	駐車場建設

市内遺跡試掘確認調査	ひがしはまはらぐち ちく 東浜原口地区	おおいけん なかつ し おおあぎ 大分県中津市大字 東浜271-4	44203	-	33° 131° 35' 12' 56" 51"	20151211	5㎡	集合住宅建設
	なべしまむかいち ちく 鍋島向地区	おおいけん なかつ し おおあぎ 大分県中津市大字 鍋島160外	44203	-	33° 131° 34' 16' 50" 27"	20150621	40㎡	県営農道整備
	ひら たじょうあと 平田城跡	おおいけん なかつ し や ば けい 大分県中津市耶馬溪 町大字平田1101番1外	44203	203228	33° 131° 28' 08' 34" 36"	20150908 ~ 20150914	30㎡	確認調査
	す わじょうあと 諏訪城跡	おおいけん なかつ し おおあぎ 大分県中津市大字 永添1472	44203	203228	33° 131° 34' 11' 26" 47"	20151207	-	確認調査
	さんこうかみふこうず ちく 三光上深水地区	おおいけん なかつ し さんこう 大分県中津市三光 上深水1452-1	44203	-	33° 131° 29' 15' 42" 07"	20151224	-	確認調査
	さんこうしもふこうず ちく 三光下深水地区	おおいけん なかつ し さんこう 大分県中津市三光 下深水1393外	44203	-	33° 131° 31' 14' 16" 34"	20151224	-	確認調査
中近世城館	ほんやばけいまち 本耶馬溪町 跡田地区	おおいけん なかつ し ほんや ば けい 大分県中津市本耶馬 溪町跡田1518-4外	44203	-	33° 131° 29' 11' 14" 10"	20160122	-	確認調査
	ちようじゃ やしきかん が い せき 長者屋敷官衙遺跡	おおいけん なかつ し おおあぎ 大分県中津市大字 永添2575-1	44203	203119	33° 131° 34' 12' 16" 11"	20150701 ~ 20160311	450㎡	確認調査

	所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特 記 事 項
市内遺跡試掘確認調査	なかつじょうか まち い せき 中津城下町遺跡30次	城下町	近世	堀跡	陶磁器	
	なかつじょうか まち い せき 中津城下町遺跡34次	城下町	近世	土坑?	なし	遺構の時期不明
	なかつじょうか まち い せき 中津城下町遺跡	城下町	近世	なし	土師器	古墳時代の包含層
	なかつじょうか まち い せき 中津城下町遺跡	城下町	近世	なし	なし	
	やつなみじょうあと 八並城跡	城館跡	中世	柱穴状遺構	なし	遺構の時期不明
	おうま い せき 合馬遺跡	包蔵地	古墳・中世	土坑	ガラス瓶・土師器	近代の遺構
	なかほろ い せき 中原遺跡	集落	中世	柱穴状遺構	土師器小片	遺構の時期不明
	いぬまるじょうあと 犬丸城跡	城館跡	中世	堀跡・柱穴	土師器・須恵器	堀跡検出
	おきだいち くじょうり ちく 沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代・中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり ちく 沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代・中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり ちく 沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代・中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり ちく 沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代・中世・近世	なし	なし	なし
	おきだいち くじょうり ちく 沖代地区条里跡	条里跡	古墳・古代・中世・近世	なし	なし	なし
	なかむら い せき 中村遺跡	包蔵地	弥生・古墳	なし	なし	なし
	ほうがき い せき くらうず い せき 法垣遺跡・黒水遺跡	中世・集落・墳墓	縄文・弥生・古墳・中世・近世	なし	石器・須恵器	なし
	中近世城館	ひら たじょうあと 平田城跡	城館跡	中世	石垣	なし
す わじょうあと 諏訪城跡		城館跡	中世	土塁・堀跡・曲輪	なし	方形区画で圍繞される曲輪群
さんこうかみふこうず ちく 三光上深水地区		城館跡	中世	曲輪	なし	階段状曲輪を確認
さんこうしもふこうず ちく 三光下深水地区		城館跡	中世	堀切・畝状堅堀・土塁・曲輪	なし	コンパクトにまとまる遺構群
ちようじゃ やしきかん が い せき 長者屋敷官衙遺跡	官衙	古代	柱穴・竪穴	土師器・須恵器	幢竿遺構	

要 約	<p>犬丸城跡の確認調査では堀跡を確認した。</p> <p>中近世城館確認調査では、永添地区（諏訪城跡）で土塁・堀跡をもつ方形区画を確認した。三光下深水地区では、畝上堅堀をもつ城館を確認した。</p> <p>長者屋敷官衙遺跡では、SB-5、SB-13（礎石建物）南溝、SA-27、SD-34の再調査を行った。</p>
-----	--

市内遺跡試掘確認調査
中近世城館確認調査（3）
長者屋敷官衙遺跡

市内遺跡発掘調査概報 9
中津市文化財調査報告 第75集

2016年3月31日

発行 中津市教育委員会
印刷 ㈱川原田印刷社